

2024年 大 発 会

1月4日、2024年のスタートを切る大発会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者約60名の皆様にご出席をいただきました。長理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き理事長の音頭により、証券市場が益々活況を呈しますよう祈念して、吉例の「博多手一本」を入れました。



最後に、定野理事(西日本シティT T証券株式会社 代表取締役社長)の音頭により乾杯を行いました。



理事長挨拶
(2024年大発会)

皆さま、本日は朝早くから本所の大発会にご参集いただき、誠にありがとうございます。ございます。

異例ではありますが、年頭のご挨拶を申し上げます前に、元旦に発生いたしました、能登半島地震に関し、一言述べさせていただきます。

まずは、今回の地震により、亡くなられました方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆さまにお見舞いを申し上げます。

痛ましい状況をテレビで見ながら、人知を超えた自然災害の脅威というものを改めて実感した次第です。早期の地震収束と、被災した地域の復旧を皆さまとともに祈りたいと思います。

それでは、2024年、令和6年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。大納会でも申し上げましたように、兎年の昨年後半は、上値の重い時期もありましたが、3万円台から3万3千円台で推移するなど、相場格言通りに兎が跳ねた1年でした。

現在の世界経済をめぐる情勢をみますと、中国経済に足踏み感がみられるほか、米国経済の先行きについても見方が分かれています。米国に加えて日本の金融政策の動向にも注目が集まっており、株価が乱高下する場面もあるかもしれません。

一方、年間投資枠が拡大し、非課税期間が無期限化した新しいNISA制度が既にスタートしています。今年はこの新しいNISA制度が株価を下支えしていくとともに、家計の将来を見据えた資産形成に大いに貢献していくことを期待したいと思います。

本年は、干支(えと)でいえば、「甲辰」(きのえ・たつ)にあたっております。前回の「甲辰」は、東京オリンピック開催の1964年(昭和39年)であり、日本が高度成長真っただ中であつた時期でした。

甲(きのえ)のほうは、干支(かんし)の最初で、かつては一番良い成績を表す文字としても使われていました。亀の甲羅の「甲」のイメージどおりに、植物では硬い殻におおわれた種子が成長を待ちわびる状態を指しているといわれます。

また、辰(たつ)の方は、相場格言では「辰巳(たつみ)天井」と申します。

植物では草木が成長して形が整っていく様子を指しますし、生き物では、ご存じのとおり、伝説の生き物、「竜」があてられています。

今年は、硬い殻を破って、「昇竜」(のぼりりゅう)のように活力のある株式市場となることを期待したいと思います。

さて、九州に目を転じますと、熊本では台湾TSMCの合併会社の工場が、いよいよ年内に稼働予定となっています。

福岡では、天神、博多駅、福岡空港をはじめ、大規模な再開発の真ただ中にあります。天神ピックバンにつきましては、新福岡ビルやヒューリック福岡ビルが年内の完成を目指しているほか、様々な再開発が進行中です。

また、博多コネクティッドにつきましては、西日本シティ銀行本店・本館をはじめ、工事が本格化してきております。福岡空港につきましても、滑走路の増設のほか、国際線ターミナルの増改築なども進められています。

こうした中、国際金融機能の集積を目指した地元福岡からの福証に対する期待が高まっております。

2022年度からの3か年の中期経営方針において、福証の目指す姿として、「地域の国際金融拠点誘致の動きを踏まえつつ、一層その機能を強化」していくことを掲げておりますが、2024年度がその最終年度にあたります。次の中期計画に繋げていくためにも、今年、目に見える形で、取組みの成果をあげていきたいと考えております。

現在、福証は、非常に難しい局面、かつ、非常に重要な課題に直面しております。すなわち、株式新規上場推進を通じた地域企業の成長に対する貢献、公正で信頼のおける取引所の運営といったこれまで福証が大切にしてきた理念と、地元福岡からの福証に対する期待とを、いかに調和させ・発展させていくかという重要な課題です。

このため、お集りの会員証券会社の皆様、普段より福証を支えていただいている関係者の皆様からは、これまで以上にお力添えをいただくことになる1年になるものと考えております。

もちろん、役職員一同、皆様方との連携・協力を一層強固なものにしながら、地域になくてはならない取引所として、微力ながら九州を中心とした地域経済発展に力を尽くしてまいりたい所存です。つきましては、今年も福証の取組みに対し、引続きのご支援ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。